



アジア・アジアパラ競技大会 に関する懇談会 －新たな理念の構築に向けて－

2022.11.21

來田享子（中京大学）



②D&Iの推進の視点から
特にジェンダー平等について

東京2020大会での到達点

- 五輪参加選手の49%が女性（IOCによる割り当て）
- パラ参加選手の40.5%が女性（前大会38.6%）
- 男女の五輪種目が同数
- 男女五輪混合種目18（前大会9種目）
- 206NOCすべてが少なくとも各1名の男女選手
- 男女1名ずつのアスリートが旗手



両性が同じ割合で存在し、共に参加する
社会のイメージを創出しようとしてきた

2

東京2020大会の課題

- + 成果のほとんどがIOCのリーダーシップによるもの
=ジェンダー平等に関する組織委員会による
主体的取り組みは、組織内かつ限定的なもののみ
- + オリパラのムーブメントの力に対する国際社会の期待に
応えるための課題発見・戦略・検証に欠けた
(組織委によるジェンダー平等報告書p.17参照)
- + ジェンダー平等推進のための予算配分／各界と協力した取
り組み（キャンペーン等）／表象／プログラム

3

アジアにおける日本の位置づけ (WEF ジェンダーギャップ指数)



日常的に目にする公表データ

順位	国名	数値
1	アイスランド	0.908
2	フィンランド	0.860
3	ノルウェー	0.845
...
116	日本	0.650
...
146	アフガニスタン	0.435

WEF (2022) Global Gender Gap Report2022

+ 2018年アジア大会 (ジャカルタ)
参加国・地域45

+ WEFにデータがある国・地域36

日本 **23** / 36

WEFの指標にもとづけば、
愛知・名古屋大会が受け入れる選手団の
7割以上が日本よりジェンダー平等が進
んでいる

現 状

愛知の取り組み

世界中の
アジアのジェンダー平等

遅れている

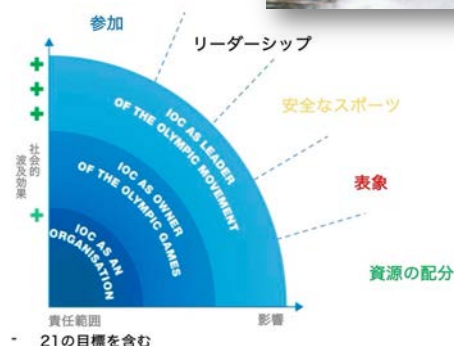
遅れている

アジアの中の
日本のジェンダー平等

- 経済分野と子育て支援が中心
- 性の多様性への理解促進は弱い
- スポーツ分野と横断する取り組みはなかった

IOCによるジェンダー平等政策

- + 2018年IOCジェンダー平等再検討プロジェクト報告書
→東京2020大会の評価に活用
- + オリンピック・アジェンダ2020+5提言13にもとづく「IOCジェンダー平等およびインクルージョン目標2021-2024」



2021-2024年のジェンダー平等とインクルージョンの目標

6

OCAにおける最近の対応

- + 2021年9月の理事会で2022年第19回大会でのチーム編成における男女平等の強化を要請
- + ジェンダー平等委員会



- 少なくとも1競技のアスリートに対しオリンピック教育+ジェンダー平等の学習・実践の機会の提供をNOCに要請
- モデルとなるアスリートの活用やアスリート委員会との連携
- コーチや審判の女性割合の増加
- 社会全体での取り組みを進めるために、若者に対する教育の場であるスポーツでの取り組みが重要

(同委員会日本人委員である山口香氏による情報提供にもとづく)

* 委員会の活動は「女性スポーツ委員会」といえる状況

7

OCA主催ジェンダー平等セミナー

(2022.10.30)

3つのトピック

- + 女性の代表性と参加を高める
- + ジェンダー平等を推進するためのベストな実践
- + 草の根戦略

8

【参考】

女性の代表性と参加を高める

- + 次世代リーダーへの教育・啓発による意思決定機関への女性の参加の奨励
- + 支援・教育による女性アスリートのキャリアアップ
- + メディアによる男女の表象のバランスをとり、平等な露出の機会を提供
- + 女性参加者の（性的被害等からの）保護施策の策定と確実な実施
- + あらゆるステークホルダーの育成機会を設け、実行

9

【参考】

ジェンダー平等を推進するためのベストな実践

- + NOCがOCAとIOCの勧告・目標に沿った戦略および行動計画を策定する
- + OCA加盟諸国での女性スポーツを支援する法的対応
- + IOCによるジェンダー平等関連の公表資料の活用
- + OCAとIOCからの最新情報に対応するためのフォーラムやウェビナーの開催
- + 2019年以降の国際規模の調査等を踏まえたIOCによるベストな実践を活用
- + 女性のエンパワーメントとジェンダー平等を支援するためのIOC・OCAによるプログラムの活用
- + 国内外のスポーツ組織間のネットワークの構築と連携協力
- + IOC2021－2025年ジェンダー平等戦略を考慮

10

草の根戦略

【参考】

- + OCAはNOCに対し、草の根レベルから女性・少女の平等な参加の促進を要請
- + 国内スポーツ関係組織があらゆるレベル、特に年齢区分の異なる競技会におけるジェンダー平等の実現するよう、NOCが監督する
- + NOCがジェンダー平等の戦略に草の根レベルのターゲットを対象としたロードマップを含める
- + NOCは国内スポーツ組織が草の根レベルのスポーツにおけるジェンダー平等の達成に取り組んでいることを確認するためのモニタリングシステムを確立する

11

パリ2024における取り組み



+ フランス2023 (2019年11月)
「大会を通してより良くするための170の指標」

<特徴>

- パリ2024の開催にあたり、大会準備期間中からオリンピックやパラリンピックの理念に適合するよう170の解決すべき社会課題の指標を提示
- 省庁および地方自治体が部局横断的に取り組む
- ジェンダー平等に関する具体的な指標は【資料】を参照

12

オリンピックにおける開催都市契約の変更

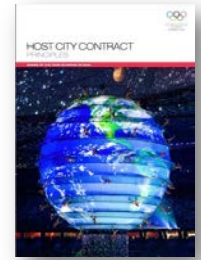
+ コア要件

13.1 開催都市、開催地のNOC、OCOGは、オリンピック憲章とIOC倫理規程の遵守に努め、オリンピズムの根本原則と価値、ならびにオリンピック・ムーブメントの発展を促進し高める形で大会開催に関連する活動を行うことに同意する



13

オリンピックにおける開催都市契約の変更 (2024年パリ大会以降)



13.2 13.1の義務に従い、開催都市、開催NOC、OCOGは、大会の組織に関する活動において以下を行う

- a. 人種、肌の色、性別※、性的指向、言語、宗教、政治的意見、その他の意見、国民的・社会的出身、財産、出生、その他の地位を理由にした国または人に対するあらゆる形態の差別を禁止する。
- b. 人権を保護・尊重し、人権侵害があれば、開催国に適用される国際協定、法律および規制、ならびに開催国に適用されるビジネスと人権に関する国連指導原則を含む国際的に認知されたすべての人権基準および原則と整合する方法で是正されるようにする。

14

オリンピックにおける開催都市契約の変更 (2024年パリ大会以降)



- c. 開催都市で適用される国際協定、法律、規制、および開催都市において適用される国際的に認められた腐敗防止基準に合致する方法で、不正または腐敗に関わるいかなる行為も行わないこと（効果的な通報（制度）とコンプライアンスの確立と維持によることを含む）。

15

検討すべきこと

- + 新たな事業モデルには、大会を社会課題解決の契機とするためのムーブメントとしての要素が不可欠。県のスポーツ政策との連続性を視野に入れる
 - 地域・学校教育・地元企業への働きかけを「大会盛り上げ教育」に終始しない
 - 大学連携等、東京2020大会の資産の活用
- + 2022年3月28日にパラが追加された開催意義には、D&Iの視点として「障害への理解促進や障害のある肩の鞞機参加の促進を中心に、多様性を尊重し合う共生社会の実現」が示されているが、D&Iの射程が不明瞭（多様性という言葉の便利さ）

【資料】 フランス2024 大会を通してより良くする170の指標より
 ジェンダー平等関連の政策を抜粋

番号	戦略目標	指標	実施主体
25	・都市スポーツとその実践に関する国レベルのイベントの支援と協力 ・都市部における社会のつながりをもたらすスポーツの発展を加速させる	組織的支援： ・重点地区においてジェンダー・ステレオタイプとの闘い、男女平等を促進するために女性スポーツを発展させる ・スポーツと健康を促進し、疾病の予防や重点居住区の市民の幸福を向上させる ・フランスの価値を高めるために地域のアスリートを支援し、競技力の向上を図る ・学校を中退した若者や職業的に社会の一員になる途上にある若者を支援するためのスポーツ分野を広げる	地域および地方自治体
26		都市のスポーツと実践をテーマとした3つの全国的イベント（2019年、2021年、2023年）を開催し、開催地近隣の創造性を促進	地域および地方自治体/スポーツ省/文化省
77	主要スポーツイベントを男女の平等な参画の模範とする	パリ2024の男女の平等な参画推進ガイドラインの作成	男女平等・多様性と機会均等省/同省あらゆる差別との戦い担当部局
81	スポーツにおける審判の女性化	スポーツ組織に対し、女性による審判の促進、女性審判イメージの向上、審判としてのキャリア形成不可欠なあらゆるに不可欠なあらゆる権利を確保することを奨励する	スポーツ省/男女平等・多様性と機会均等省
82	国内のあらゆるレベルのスポーツ組織の意思決定機関における男女の平等な関わりを強化する	法律により競技団体とその加盟クラブの意思決定機関における女性の最少割合を拡大	スポーツ省
83	性別・性自認・性的指向の違いに関わらない大会を開催し、誰もが完全に受け入れられるような大会を提供する	LGBTアスリートの可視化とカップルの多様性を支援	DILCRAH/大会組織委員会
84		大会期間中のLGBTプライドハウス設置への貢献	DILCRAH/大会組織委員会/大会関係者
85		LGBTの市民を歓迎することについて国際的に発信し、暖かい歓迎を確保する（大会ウェブサイトにはLGBTに焦点をあてたページを作る）	DILCRAH/大会組織委員会
86	スポーツにおける人種差別・反ユダヤ主義・同性愛嫌悪との闘いを強化する	スポーツ組織で管理者として働こうとするすべての人に対し、スポーツにおける人種差別・反ユダヤ主義・同性愛嫌悪の問題に関する必修トレーニングモジュールを開発する	スポーツ省/DILCRAH
87		スポーツにおける人種差別・反ユダヤ主義・同性愛嫌悪に対抗するため、著名なアンバサダーを巻き込んだコミュニケーション・キャンペーンを定期的に展開する	スポーツ省/DILCRAH
88		スポーツ界に、人種差別、反ユダヤ主義、同性愛差別の行為に対する具体的な検討を強化するよう促す	スポーツ省/DILCRAH
89		スポーツにおける差別と闘う、よりインクルーシブなスポーツのためのコミュニケーション・キャンペーンを開始する	男女平等・多様性と機会均等省/スポーツ省/DILCRAH/障害者の人々
134	大規模な文化イベント/大規模スポーツイベントにおける経験を活用する	主要な国際スポーツイベントで開発されたイノベーションを活用し、文化・スポーツイベントのための共通の参照枠組みを確立する：障害者のためのアクセシビリティ、観光部門、男女平等、LGBT、安全、顧客体験、イベントの環境責任	スポーツ省/文化省